学生海外研修報告
「私が体験したこと」

ハワイ大学（米国）
林 賢一郎（医学部6年）

海外選択臨床実習する意義は何であるかという問いに対し、実習を終えた私が今考えるのは『医師として働く上で、礎となる理念や思考を深める機会である』ということです。

私は、今年の4月にハワイ大学の内科プログラムに参加しました。ハワイ大学はPBL形式学習を最初に導入するなど、教育に力を入れている大学です。実習では、3週間は病院の総合内科で上級医の先生に毎朝担当患者のプレゼンを行うなどチームの一員として活動し、1週間はハワイでベストドクターに選ばれている家庭医の渡慶次先生の下で実習しました。渡慶次先生に出会えたことは、数え切れない貴重な経験の中で一番の財産です。医師の働き方改革等の社会問題が存在する中で、365日24時間On Callを自身の理念の下で実行し続けている姿に感銘を受けると同時に、私の中で何故数ある職種の中から医師になりたいのかという根本の部分を再確認しました。

（左端）林賢一郎さん

最後に、このような機会を設けてくださった深貝隆志教授や国際交流センターの先生方、協力していただいた方々に深く感謝し、この経験を必ず今後に活かしていく所存です。

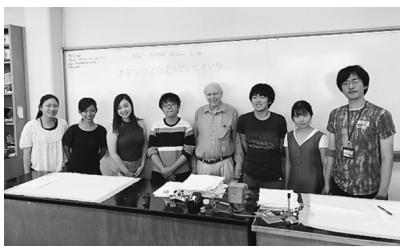
カリフォルニア大学ロサンジェルス校（米国）
鈴木 駿輔（医学部2年）

私は初めての海外ということもあり、6週間という長い海外生活に不安を抱いていました。加えて、英語の壁もあったので渡航前は不安要素が非常にありましたが、そうしたことも含めて今回の留学に挑戦しました。挑戦して得るものは人生でとても大切だと思うからです。

最初はとても苦労し、タクシーを呼んで目的地に行くだけでも大変でした。言いたいフレーズが思いつかず、英語の壁を痛感しました。

それでも少しずつ成長していき、本当に成長を実感できたのは、英語の授業中にクラスメイトから「最初に比べて君は本当によく話せるようになったね」と言われた時でした。今でもこの時の嬉しさを忘れることはできません。

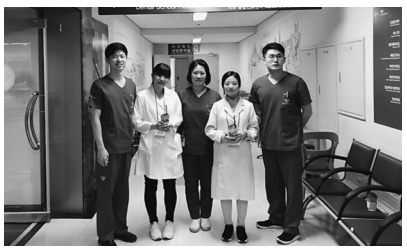
最後に、今回の留学を最高のものにできたのは、今回の留学を共にした大切な仲間、留学の手続きを手伝ってくださった先生方、そして自分が出かけやすいように気遣って送り出してくれた両親のおかげでした。本当にありがとうございました。今回の留学で得たものは今後の人生にポジティブな影響を与えてくれることだと思います。


（左から４人目）鈴木駿輔さん

慶熙大学（韓国）
下野 史菜子（歯学部6年）

今春、韓国の慶熙大学（Kyung Hee University）にて、海外実習を行いました。韓国屈指の名門大学の歯学部へ、初の実習生として権洸眞さん（歯学部6年）と共に3週間を過ごしました。

韓国では日本と同じ治療が行われていることもありますが、保険制度、医療体制が異なることから、患者が求める治療は異なります。例えば、日本では義歯症例の患者が韓国ではインプラントになるケースもあります。65歳以上は保険適応とされるからです。


（左から2人目）権　洸眞さん（左から4人目）下野史菜子さん

新しい治療にも積極的であり、矯正の顔貌変化のシミュレーションは、審美領域への関心の高い韓国らしさが伺われました。他にも東洋医学専門科があり、これは慶熙大学の特色にもなっています。

「医療」は万国共通に存在します。しかし他国の視点と比較し、初めて差異が見えてきます。「国際的な視点を持ってほしい」と言われる意味が実感できました。不安だった語学力も、同級生や、先生方、教授陣のサポートを得られ、不自由は感じずに過ごせました。カリキュラム外では、学生同士で食事を共にするなど、韓英日語での交流は、かけがえのない経験となりました。また機会があれば、その時は歯科医師として是非参加したいです。

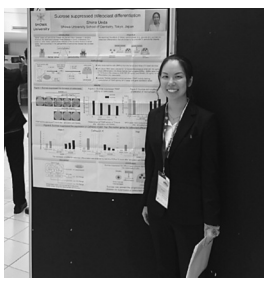
アジア太平洋歯科学生会議（マレーシア）
植田 紫衣生（歯学部4年）

私は8月6日から8月10日にマレーシアで開催されたアジア太平洋歯科学生会議（APDSA）に参加しました。

APDSAの期間中はほとんどグループで行動します。私のグループは、マレーシア人2名、タイ人2名、台湾人2名、インドネシア人2名、韓国人1名、日本人1名のグループでした。日本人は私だけで不安でしたが、多くの学生が気さくに話しかけてくれたので楽しかったです。

私は2日目に行われたScientific Research Competitionにおけるポスター部門にも参加し、今年度取り組んだ「破骨細胞へのスクロースの影響」について発表しました。研究発表するための準備は大変苦労しましたが、何とかやり遂げることができました。努力の結果が実ったことで自分に自信が付き、良い経験となりました

今回ご指導・ご協力いただいた口腔生化学教室の上條竜太郎先生、吉村健太郎先生、笹清人先生、今井裕子先生、国際交流センターの橋本みゆき先生、マイケルマイヤース先生、平泉由香先生に心からお礼申し上げます。



カリフォルニア大学ロサンジェルス校（米国）
下窪 真子（歯学部3年）

私はこの夏UCLAのsummer sessionsに6週間参加しました。ずっと前から憧れていたUCLAの広大なキャンパス、日本とは全然違うアクティブな授業、アメリカ人と中国人のルームメイトとの寮生活、すべてが新鮮でした。

自分の英語力の至らなさにはショックを受けましたが、それでもどうにかして伝えようと努力したら、会話もだいぶスムーズにできるようになりました。わからなくても伝えようとする姿勢が大事であると身をもって感じました。

生理学の授業は難しく苦労しましたが、学生が積極的に手を上げて発言しており、活発に意見が飛び交っている様子にとても刺激を受けました。

この研修ではUCLAの病院見学、歯学部見学もさせていただきました。歯科病院で、学生が一人ずつ治療をしているのを見て、日本との違いに驚きました。またUCLAでご活躍されている昭和大学卒業生のSalamon典子先生、成田真季先生からアメリカと日本の医療の違いなど貴重なお話をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。私も将来はアメリカの大学院に留学したいです。

2018年昭和大学は創立90周年を迎えました

記念式典・祝賀会を来年（2019年）に挙行！

開催日：2019年11月10日（日）

90th SHOWA University 至誠一貫 Since 1928

◎記念式典

会場：昭和大学上條記念館

記念講演や上條記念館の披露会を予定
昭和大学上條メモリアル合唱団による第九合唱を実施

◎記念祝賀会

会場：グランドプリンスホテル新高輪　飛天

昭和大学上條メモリアル合唱団による合唱を実施

創立90周年記念事業（上條記念館建設事業）募金へご協力いただいた方は式典・祝賀会に招待いたします。

続報は随時！

マダガスカル口唇口蓋裂
医療協力団が帰還

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団が18日間の活動を終え9月29日、日本へ帰還した。

この事業は、アフリカ大陸東部の島国、マダガスカルで口唇口蓋裂に苦しむ子どもたちを助けようと、2011年5月から毎年行われている。

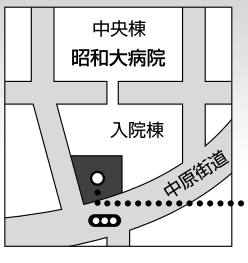
昭和大学職員からは医師、歯科医師、看護師をはじめ、学部学生、大学院生ら15人が派遣され、クリニック・アヴェマリア病院にて現地スタッフとともに手術や治療を行った。

今回の活動詳細は11月20日開催予定のマダガスカル口唇口蓋裂医療協力団報告会にて土佐泰祥准教授を始めとする参加者からそれぞれ発表がある。

口唇口蓋裂手術の様子

医学堂書店
品川区
旗の台
電話（03）
3783-9774

お気軽にご相談を!!
◆万が一のための保障準備
◆住宅ローン・資産運用など



お問い合わせ・ご予約は
三井住友銀行 旗ノ台支店
東京都品川区旗の台1-4-15
TEL. 03-3785-3012

SMBC 三井住友銀行